

音楽部報 : 部報

著者	海城
雑誌名	龍南
巻	2 2 5
ページ	8 6 - 8 9
発行年	1933-07-02
その他の言語のタイトル	音楽部報 : 部報
URL	http://hdl.handle.net/2298/7138

る。將來に於て優勝する事は確實である。

三段飛 戸島(文二乙) 勇躍十二米八〇を飛び同じく七等を得、將來の制覇必せり。

棒高跳 大居(理三乙) 三回目に確實に三米一〇のバーを越え、岸野(理一乙)同じく二回目に三米一〇を勇躍初陣を飾り兩者相並んで入選、四等となる。

槍 投 藤田(理二甲三) 出場、第三投目には遙か四〇米のラインを越え他校選士の心膽を寒からしめたが惜くもファウルとなり長蛇を逸す。明年の優勝は確實なり、期して待たん。

ハンマー投 大宮(理三乙) 鷹松(理三甲一) 出場、大宮元氣一杯二七米三〇を投げ六等に入選貴重の一點を獲得。

走高跳 身深(文三乙) コンデイション悪く。昨年度は二等となり今年の優勝確實と自他共に許してゐたが惜くもバーは落ち、恨を春日原頭に残す。岸野(理一乙)スパイクし負傷し乍ら頑破り一米六五の延長戦に於て第四回目を失敗七等となる。

一(六)一

五高の得點左の如し 合計十點

四百米	鷹松	三 等	4 點
棒高跳	大宮	四 等	3 點
〃	岸野	五 等	2 點
鐵槌投	大宮	六 等	1 點

吾人は昨年度の不振を撤回し、雪辱せんものと梅雨中にも拘らず一意全國高校大會を目標に猛練習をやつてをります。吾人の現在の實力に對し先輩の築いた黄金時代の業績が餘りに偉大である爲に我々は唯々無我の猛練習を以て先輩並びに龍南一千の諸兄への答へにせんと欲するものであります。

音 樂 部 報

海 城 記

先輩諸兄の血と涙と、汗との結晶であるべき我音樂部

は、その不安にして然も脈々たる生氣を深くたゞえたる主題を経過し今や活發にして力強き、而もあまり早急に失せざるノントロツボの展開部に至る。

部員の意氣此所によく一致し、萬難を排撃して部の建設——寧ろ整備に營々たり。

今や吾等は龍南文化の一角に鋭角的な尖端をあらはせり。

龍南文化の爲、延いては熊本樂界の爲、部員一同倍舊の努力もつて、部の發展にあたる覺悟である。諸兄の熱烈なる應援と支持を乞ふ。

さて、萬期沈滞の冬去れば、活力に溢れる春が再び訪れた。樂季至る。新學期早々から部員は昨年既に定められた豫定曲目の楽譜及練習に忙しい。

第五回春季演奏會は大体順調な練習が續くものと考へて、五月十三日の豫定であつた。本年度は昨年あるひは一昨年などの如き外部からの支障はなく一同非常に安心してゐたが豫定の日近くなつて部員の一部に支障を來した爲一週間の延期を余儀なくさせられた。今までの一致

した氣分がこの間に破壊される事を最も恐れたが、幸ひに部員諸君の氣分は渾然融合し、今までの練習に仕上げをほどこして、今までに見られぬ程の立派な曲目ばかり集め得たことは、最も嬉ばしい。

當日二十日は朝から曇天、晝頃になつて暴風雨となつた。之はすぐやんだが、太陽は遂に吾々に微笑まず、例年程の場外に溢れるまでの聴衆は得られなかつたが、却つて眞の愛好家ばかりの集ひとも言へる會であつた。聴衆の態度も極めて高尚で洗練されてゐた。

部員も樂な氣分で技を發揮することが出來た。本年は曲目解説を出さなかつたから簡單に春の演奏會の重要曲目の解説を試みよう。諸兄の参考ともなれば幸甚である。

一、ワルツ 南國の薔薇

ヨハン・シュトラウス 作品三八八

ワルツで有名なシュトラウスの作品である。八分の六拍子の靜かな導入部に續いて、第一、第二、第三のワルツがあらはれた。親しみ深い旋律である。之に續いてコ

ーダ(結尾)が少し速い拍子であらはれる。この部では今まで現れた色々な主旋律が時折明るくひらめく。

二、ヴィオリン獨奏

諸君もよく御存知の「ジョセランの子守歌」と「金婚式」前者はゴダールの歌劇の或場面で唱はれるものであるが、今日では専ら樂器曲としてセンジャーの編曲したものが用ひられる。甘い哀愁のこもつたその曲調と旋律にその生命がある。「金婚式」はマリーの作である。

三、ピアノ獨奏 トロイカ

之は露西亞の有名な作曲家チャイコフスキーの作である。之は一年間の各月毎に作られた小品の中の一ツで十一月の曲にあたる。櫓の馳せる有様を叙したもので相當技巧を要するものである。浪漫的、感傷的なその主旋律は聴く者を深く印象づける。尙彼のこの種の有名な作品に「六月の船唄」「十月の秋の歌」などがある。

四、玩具交響曲 ハイドン作

如何にも好々爺ハイドンを思はせる面白い曲である。曲は三樂章に分れてゐる。最も注目すべき標題の示す如

く、管樂器は全部玩具に置き代へられた點である。結樂器はピアノを除いただけで、あとは全部用ひられる。

玩具の種類を記すと「鶯」、「鳩笛」、「ウズラ」、「鈴」、「カステネット」、「ラツパ」、「トライアングル」、「シンバル」、「ガラガラ」、「太鼓」など。全部が愉快な氣分に溢れた曲調に終始して、聴く者を倦かせない。

五、序曲「フィガロの結婚」 モツアルト作

この喜歌劇は塊太利ヨゼフ二世陛下の勅命に依りて作られたもので、ボウルマルシェーの同名の喜劇から材を採つた。

無邪氣な快活さと輝かしさに溢れてゐる。彼は、始め因襲的に、第一段のプレストの後にアンダンテの部分位置かうとしたが後に之をやめた。爲に曲はプレストに終始し、より以上に激激たるものとなる。モツアルト獨特の美しい旋律の連續より成るが、用ひられた主題は三種である。この序曲程華麗にして輕快、且優雅な作品は古來の序曲中にその比を見ない。

六、ヴィオリン獨奏

「G線上のアリア」はバッハ原作の管絃樂組曲の中の、
宣奏調の一部をウイエルヘルミが編曲しグイオリンのG線
のみで演奏される様に成つた所からこの名が冠せられた
のである。「アリア」とは「歌調」の意である。

「ホームスイートホーム變奏曲」導入部に續いて、親し
みあるその主題があらはれ、之を経過して、この主題を
色々な形にくだいた變奏曲、短い間奏句、それから結尾
に至り華かに終る。

七、結婚行進曲 メンデルスゾーン作

普魯西王ウイエルヘルム四世は、沙翁の戯曲「眞夏の夜の
夢」の音楽を彼に命じた。之は戯曲各場面のための樂曲
十二種から成るが「結婚行進曲」はその九番目にあたり、
第四幕の終りに演奏される。ピアノ曲としても、獨立し
て知られてゐる。アレグロビバーチエの速度で書かれた
もので歡喜に満ちた旋律とリズムとは華麗な祝婚の氣分
に溢れてゐる。尙、彼の作品には、この戯曲の爲の序曲
が別にある。

